

## 水稻V溝乾田直播栽培の生育状況（7/12現在）

農林総合研究所のV溝乾田直播見本栽培では、7月12日に幼穂形成期に到達しました。水稻の生育状況は、以下のとおりです。

### 【耕種概要】

- ①品種 まっしぐら
- ②播種床造成 秋季耕起・代かき  
⇒ 均平（4月24日）
- ③種子処理 種子消毒後に浸種し、  
キヒゲンR2フロアブル塗沫
- ④播種機 V溝播種機
- ⑤播種日 4月26日
- ⑥播種量 乾粳10kg/10a程度
- ⑦施肥量 窒素成分10kg/10a程度（LP100）
- ⑧雑草防除 5月22日・トドメバスMF液剤  
6月4日・カウントダウンジャンボ



写真1 7月12日現在の生育状況

### 【水稻の生育状況】

生育が中庸な箇所の生育状況は草丈が58cm、茎数が765本/㎡、葉色値（SPAD-502）は34.8です。

### 【雑草の状況】

入水前の選択性茎葉処理剤と入水後の一発剤により、ノビエの雑草などはみられず、雑草の発生は抑えられています。



写真2 調査区の生育状況

### 【今後の栽培管理】

天水を利用した深水管理を行い、無効茎や雑草の発生を抑えます。

### 【幼穂形成期の追肥について】

㎡当たりの苗立数が目標苗立数である100～140本を大きく上回った場合、生育が過繁茂になることで幼穂形成期頃の葉色が低下し、穂数や一穂粒数が減少することがあります。この対策として、幼穂形成期に窒素成分で2kg/10a程度（硫酸などの速効性肥料）を追肥することが有効です。

技術の内容を詳しく知りたい方は、令和4年度指導参考資料「津軽地域における「まっしぐら」を用いた水稻乾田直播栽培での追肥効果」を参考にしてください。

○ 令和4年度指導参考資料（一部抜粋）

津軽地域における「まっしぐら」を用いた水稲乾田直播栽培での追肥効果

- ・ 幼穂形成期の追肥により㎡当たり籾数が増加する。
- ・ 玄米千粒重は並～やや優り、登熟歩合は同程度となる。
- ・ 玄米タンパク質含有率はやや高くなるが、玄米品質は同等となる。

【X（旧Twitter）での情報提供について】

農林総合研究所の公式Xアカウントを開設しました！

水稲V溝乾田直播栽培の生育状況をはじめ、研究所の活動や研究成果、イベント、お知らせなどの情報を発信していきます。

詳しくは、農林総合研究所公式Xアカウント（右のQRコード）をご覧ください。

